

2024年3月29日

一般社団法人
リサーチ・アドミニストレータースキル認定機構
事業運営会議 議長 重田 育照 殿

外部評価委員会
委員長 桑田 薫

2023年度実施の外部評価結果について（通知）

標記のことについて、貴機構の2023年の事業内容を記述した自己点検評価書を基に外部評価委員会として評価した結果を、別添のとおり通知します。

2023 年度外部評価書

(1) 評価結果

総合評価	URA スキル認定 機構の運営状況	URA 質保証制 度の実施状況	研修の実施状況	URA の認定の 実施状況
S	a	s	s	s

【総合評価】

- S: 所期の計画を超えた取組が行われている
 A: 所期の計画と同等の取組が行われている
 B: 所期の計画以下の取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる
 C: 総じて所期の計画以下の取組である

【各項目評価】

- s: 高く評価できる
 a: 妥当である
 b: やや不適切である
 c: 不適切である

(2) 評価コメント

・総括

2022 年に外部評価委員会で指摘した各項目について、真摯な取り組みが行われている。

指摘事項	対応
持続可能な自立した制度作りについて、検討すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講料及び審査料の見直し ・ 研修と認定審査の実施回数を見直し ・ 研修の実施期間の見直し
事業の実施で明らかになった課題を検証し、それに対する対応策を検討すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的な研修受講者の確保を課題と捉え、シンポジウムやエグゼクティブ・フォーラム等の機会に、大学等の執行部へ本事業のアピールを実施
外部評価委員会の役割として、事業の継続的な改善のための助言機関と位置付け、機構の取組みを通じて明らかになった課題とその対応策を検証し、よりよい事業へと導く形成的評価の場とすることを検討すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助事業期間中は、第三者的な立場から評価を受ける。 ・ 本事業を含む 2024 年までは、2023 年同様、第三者的な立場から評価を受け、2025 年以降については、アドバイザーボード的な位置付けへの移行を検討する。

また、2024 年度以降、研修事業が科学技術振興機構（JST）に移管される見込みの中、7 団体との連携を維持しつつ、研修及び認定事業を適切に実施するとともに、シンポジウム開催等の URA スキル認定制度の周知を行い、研修受講者数は大幅に増加している。

これらより、所期の計画を超えた取組が行われていると評価する。

・ URA スキル認定機構の運営状況

2023 年は、2022 年に引き続き、関係する 7 団体と協力し、URA スキル認定制度が広く活用されるようにシンポジウムの開催や教育学術新聞への記事掲載等の周知活動を行っている。また、ニーズの変化に対応すべく、研修事業においては確認テストの追加作問や教材改修の実施、認定事業においては、申請書様式の改訂や申請要件の検討を行っている。併せて、2024 年度以降の事業継続に備え、受講料及び審査料の見直しや、研修・認定審査の実施回数の見直し、研修期間の見直し等を行っている。結果的に 2023 年の研修受講者は、大幅に増加している。

以上の点について、妥当である。

・ URA 質保証制度の実施状況

2023 年は、2024 年度以降、研修事業が科学技術振興機構（JST）に移管される見込みの中、引き続き研修受講者及び認定審査の申請者のニーズを把握すべく、アンケートを実施し、その結果を基に制度の改善に努めている。特に大学等の雇用主側に対するアンケートを実施し、URA スキル認定制度の浸透状況・活用状況を把握するとともに、シンポジウムや個別の説明会を開催することにより制度の周知に努めている。また、外部評価委員会の位置付けを検討し、補助事業期間中は第三者的立場で評価を行うこととし、アドバイザーボード的な立ち位置とするかは、2024 年度以降に検討することを決定した。

以上の点について、高く評価できる。

・ 研修の実施状況

2023 年は、2022 年までに作成した科目群・科目及びシラバス等を継続して活用し、研修事業を実施しながら、2024 年度以降に向けて 9 科目の教材・確認テストの更新作業を行っている。また、特に Fundamental レベルについては、引き続き研修受講者に特段の制限を設けず、幅広い層の受講を認めている。その結果、2022 年に比べ研修受講者が大幅に増加している。

以上の点について、高く評価できる。

・ URA の認定の実施状況

2023 年は、2022 年までに構築した認定審査の枠組みを利用し、2022 年度後期及び 2023 年度前期の認定 URA の審査を行うとともに、不服申立てにも不服審査委員会を開催する等適切に対応している。また、申請予定者からの質問や審査員、不服審査委員会委員からのコメントを参考に、機構の Web サイト上で、質問と回答を Q&A 形式で掲載するとともに、申請書様式や申請要件の見直し・検討等を行っている。

以上の点について、高く評価できる。

外部評価委員会委員等名簿

氏名	所属	役職
磯谷 桂介	学校法人中部大学	理事（研究戦略担当），教授
○桑田 薫	国立大学法人東京工業大学	理事・副学長（ダイバーシティ推進担当）
田原 敬一郎	公益財団法人未来工学研究所	主任研究員

（敬称略・五十音順）

※○は委員長

【陪席者】

氏名	担当	所属	役職
重田 育照	事業運営会議議長	筑波大学	理事・副学長（研究担当）
正城 敏博	自己点検・評価委員会 委員長	大阪大学	教授・共創機構渉外部門長
佐治 英郎	研修委員会委員長	京都大学	名誉教授
池田 雅夫	認定委員会委員長	大阪大学	名誉教授